

6 「学び」の連続性を確保するために

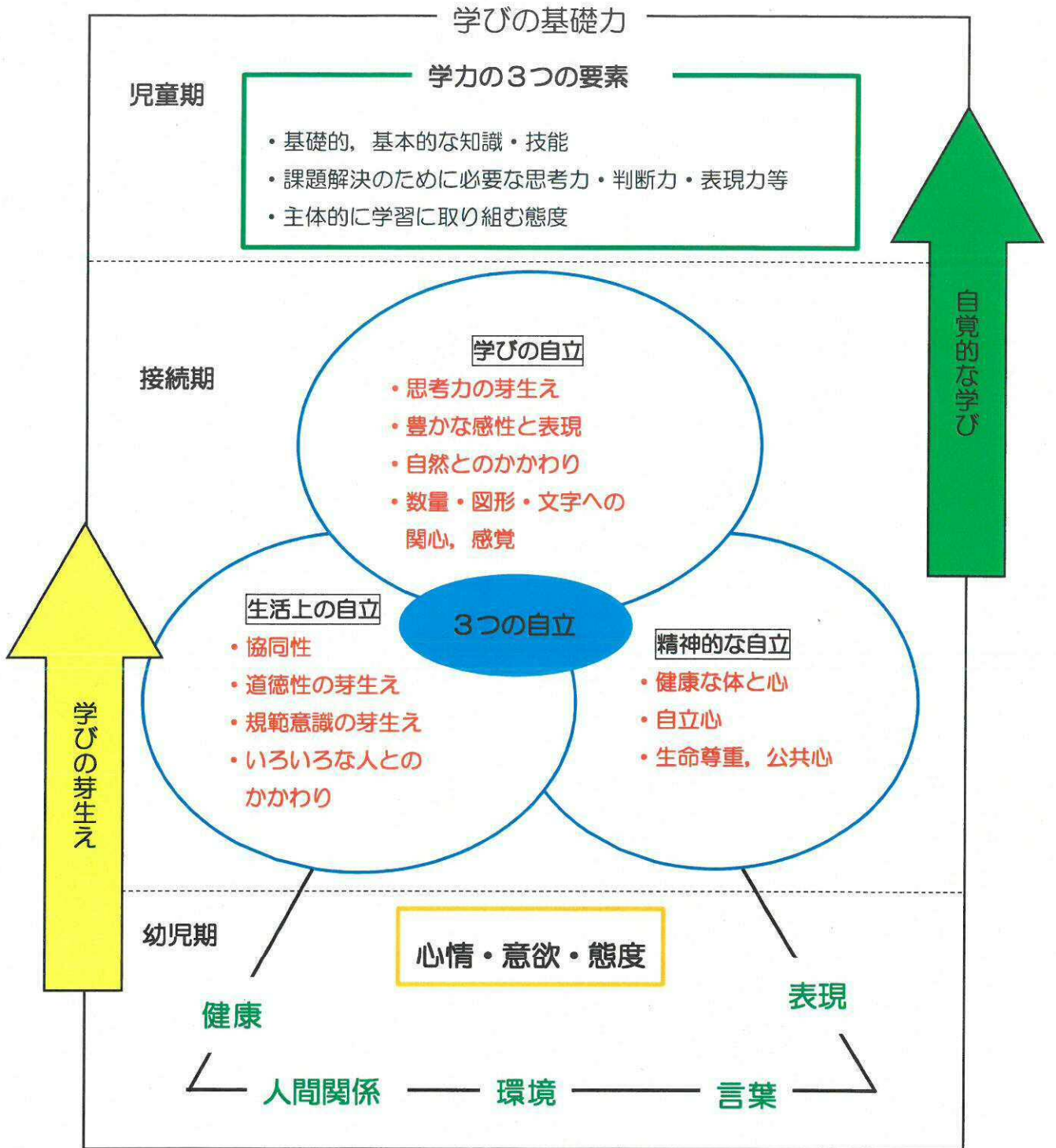


図1 幼児期から児童期の3つの自立との関連

※ 3つの自立・・・学びの自立 生活上の自立 精神的な自立

※ 幼児期の終わりまでに育てて欲しい幼児の姿・・・赤色で表示

【出典】指導の手引き 幼児期と児童期の「学び」の接続の推進に向けて 兵庫県教育委員会

(1) 幼児期における学びの芽生え

学びの芽生えとは、学ぶことを意識しているわけではありませんが、楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいくことであり、幼児期の遊びがこれに当たります。自発的活動としての遊びは、幼児期特有の学習です。

幼児期においては、健康、人間関係、環境、言葉、表現からなる5領域において、心情（豊かな心情、共感する心情）、意欲（わきあがる意欲、共通の目的に向う意欲）、態度（自立しようとする態度、協力する態度）を育むことを目標とし、様々な体験を通して生きる力の基礎となる力を培っています。

(2) 体験の多様性と関連性

幼児は環境に主体的にかかわり、様々なことを学んでいきます。そして、その学びは次の体験とつながり、体験と体験が関連していきます。これは体験の深まりであり、広がりです。

学びの基礎力は、多様な体験が関連していく中で育まれていきます。

幼児期においては、幼児の体験が関連性をもつものになっていくよう、保育者は次のことに留意することが大切です。

ア 体験に目を向ける。

イ 幼児の体験に共感する。

ウ 体験からどのような興味や関心をもったか理解し、適切な援助をする。

エ 体験から幼児が何を学んだかを理解する。

(3) 幼児期から児童期にかけて（接続期）育てたい学びの基礎力

「接続期」は、学びの基礎力の育成期間である幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間です。幼児期から児童期の教育への準備期間や慣れの期間ではなく、子どもの発達や学びの連続性を踏まえて「接続期」を捉えることが必要です。このことから、各施設の実態に応じて適切な期間を設定し工夫していくことが必要です。

幼児期の教育では、図1の「幼児期の終わりまでに育てたい幼児の姿」を参考にしながら、幼児の発達等の状況に応じて、具体的な姿をイメージし、学びの芽生えから自覚的に学ぶ意識へとつながっていくよう、教育活動を進めます。このとき、「3つの自立」につながるよう、意識していくことが大切です。

ア 幼児期から児童期における「3つの自立」

幼児期（特に幼児期の終わり）における学びの基礎力の育成において重要なことは、幼児が人やものに興味をもち、かかわる中で様々なことに気付き、それらを深め、広げていく過程の中で、自分の力を発揮し、自己抑制を調整する力を育むことです。そして、それらにより、個人として、また社会の構成員としての自立への基礎を養うことにつながります。

具体的には、「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」の「3つの自立」を養うことであり、こうした考え方は、幼児期の教育との接続を図る上で

重要な役割を果たす小学校低学年の生活科の目標に通じるものであることにも留意する必要があります。

「学びの自立」・・・自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる活動を自ら進んで行うとともに、人の話などをよく聞いて、それを参考にして自分の考えを深め、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現すること

「生活上の自立」・・・生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然と適切にかかわり、自らよりよい生活を創り出していくこと

「精神的な自立」・・・自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつこと
によって、現在及び将来における自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくこと

イ 児童期以降の「学力の3つの要素」

児童期及びそれ以降の教育において学びの基礎力の育成を図る上で重視されるのは、「基礎的な知識・技能」、「課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の「学力の3つの要素」と呼ばれるものです。

このように、幼児期から児童期にかけての教育が、学びの基礎力の育成を図るためつなげていることを意識し、どのように育ってきたのか見通しを持つことが重要です。

7 3つの育てたい力

この接続期カリキュラムでは、「3つの自立」を育むために、子どもたちに身に付けさせたい力として、次の3つを「育てたい力」として焦点化しています。

(1) 「自己を調整しようとする力」

人やものに興味や関心をもち、かかわる中で様々なことに気付くとともに、それらを深め、広げていく過程で、自己発揮と自己抑制を調整しようとする力

(2) 「考えようとする力」

自分にとって興味・関心がある活動に進んで取り組み、試行錯誤を繰り返しながら、活動に必要なことを獲得し、次の体験につなげていこうとする力

(3) 「伝え合おうとする力」

人やものに興味や関心をもち、かかわる中で様々なことに気付いたり感じたりしたことを、人に伝えたり、人の話などをよく聞いたりして、自分の考えを深め、自分の思いや考えを適切な方法で表現しようとする力

また、カリキュラムの中で、就学前施設や小学校で「育てたい力」を身に付けるための主なねらいを、子どもの発達段階に応じて示しています。

<参考>

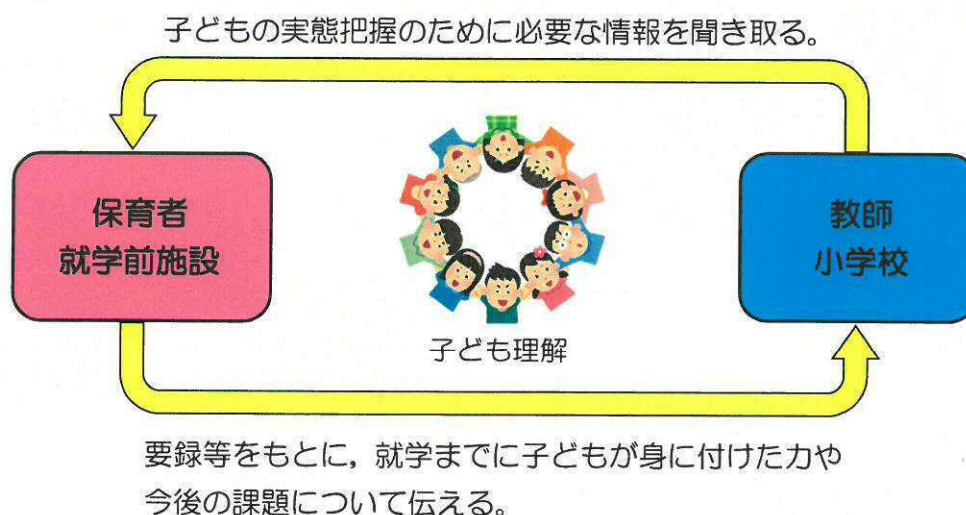
- ・ 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告） 文部科学省
- ・ 指導の手引き 幼児期と児童期の「学び」の接続の推進に向けて 兵庫県教育委員会
- ・ スタートカリキュラムスタートブック 国立教育政策研究所

8 入学する子どもの引継ぎ

円滑な接続を目指して、就学前施設の保育者と小学校の教師とが、入学前の新1年生の実態把握のためにお互いに参観し合ったり、意見交換を行ったりすることはとても重要です。小学校では、子どもの就学前施設での育ちや課題、配慮事項等を引継ぎ、クラス編制時の参考にしたり、教室の環境づくりに活かしたりするなど、入学後の指導につなげていくことが大切な取組となります。

ねらい

- 小学校の教師は、入学前の新1年生についてあらかじめ把握することで、入学後の一人一人に応じた適切な指導へつなげる。
- 就学前施設の保育者は、入学前の引継ぎ時と、入学後の子どもの様子を照らし合わせ、子どもの成長に見通しをもち、幼児期の教育・保育につなげる。



◆ ポイント

入学後にも、子どもの様子を共有することが大切です。

入学時の引継ぎ以外にも、1学期が終了するまでに保育者が小学校に出向き、子どもが小学校入学後、どのように成長しているのか、どんな課題が残っているのかを保育者と教師で共有し、互いの教育・保育の実践内容を振り返り、見直していくことも大切です。

9 就学前教育から小学校教育へ

幼児期・・・学びの芽生え

- 楽しいことや好きなきなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- 遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接かかわりながら、総合的に学んでいく。
- 日常生活の中で様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者とかかわり合う。

あこがれ
期待
安心
自信

児童期・・・自覚的な学び

- 学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- 各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- 主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者とかかわり合う。

学校でおしこじもたよ。

学校で遊んで楽しかった。

学校の図書館すこいよ。

学校の先生、楽しかった。

優しいお兄ちゃん、
お姉ちゃんがいたよ。

小学校、
楽しみ！

友達、
できたよ。

みんなしていると楽しいよ

勉強、面白いよ。

学校、楽しいよ。

先生に褒めてもらっただよ。

自分で、できたよ。

10 カリキュラム活用における就学前施設、小学校、家庭の連携図

